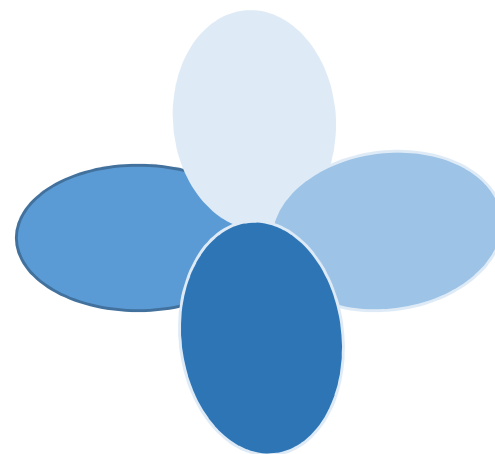




# 令和6年度 第2回 桑名市総合教育会議



## 持続可能な部活動の在り方を目指して



桑名市教育委員会学校支援課 生徒指導係  
令和7年1月31日

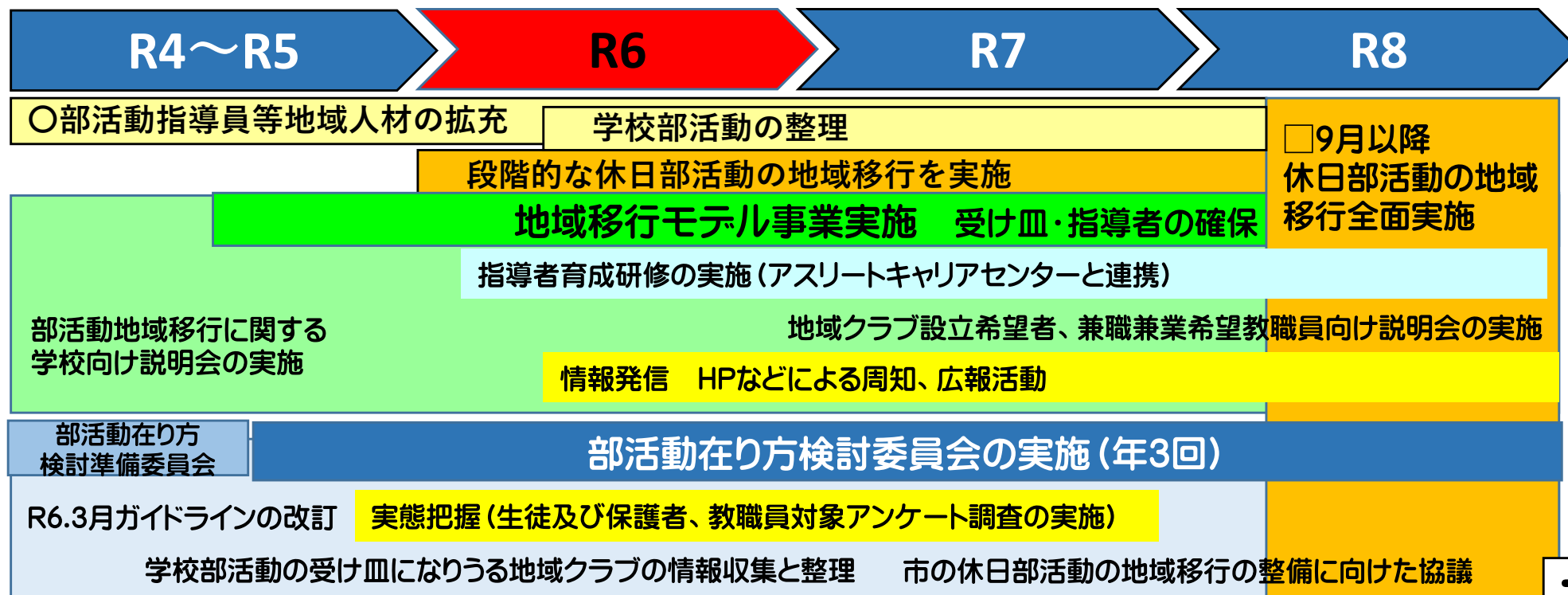
# 今後の部活動の在り方として 目指す姿

子どもたちが心身共に成長し、  
指導者もやりがいや満足感を感じられる環境づくり

- 子どもたちが自分のニーズに応じた活動に参加できる。
- 経験豊富な指導者から、指導が受けられる。

## 桑名市地域移行ロードマップ(概要版)

令和8年度中には、全ての種目での  
休日部活動の地域移行が完了することを目指す。



# 令和6年度 休日部活動地域移行状況

## 休日部活動の地域移行に向けて、休日部活動を地域クラブへ委託

### 地域クラブより指導者を派遣

〇〇スポーツクラブ  
地域文化団体

社会体育としての  
活動

休日の部活動の  
受け皿としての  
活動

学校(合同・拠点含む)へ指  
導者の派遣

KVA(桑名バレーボールアカデミー)市内1校  
なばな コミュニティアンサンブル 市内1校

### 地域クラブの活動に参加

〇〇スポーツクラブ

学校部活動の受け皿としての活動  
地域クラブとしての活動

休日の活動を地域クラブ  
でおこなう

KSA(桑名ソフトボールアカデミー)  
市内2校合同チーム

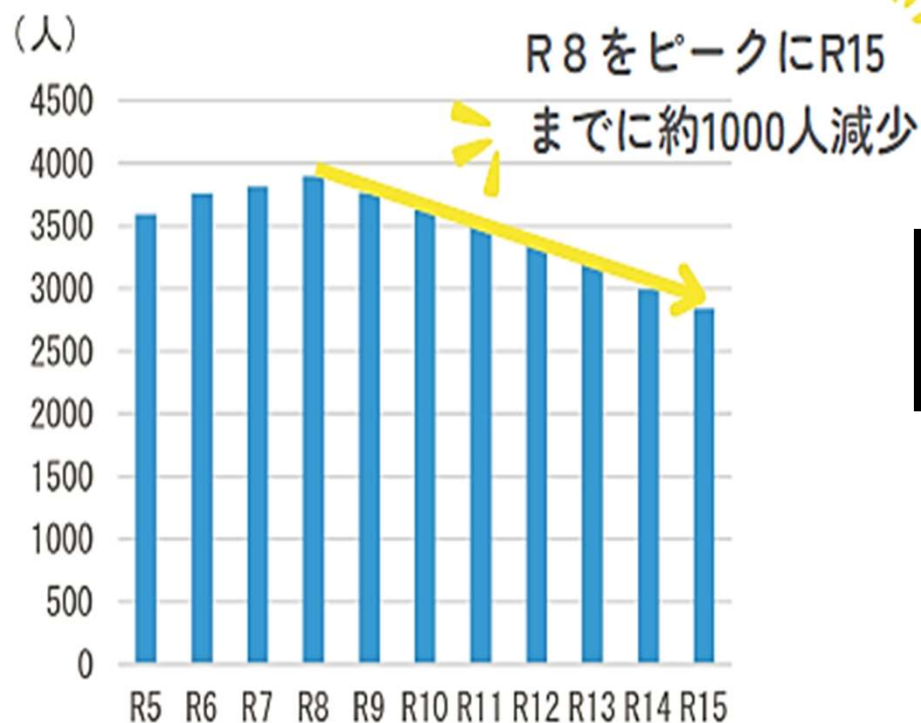
# 桑名市の現状



少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しい

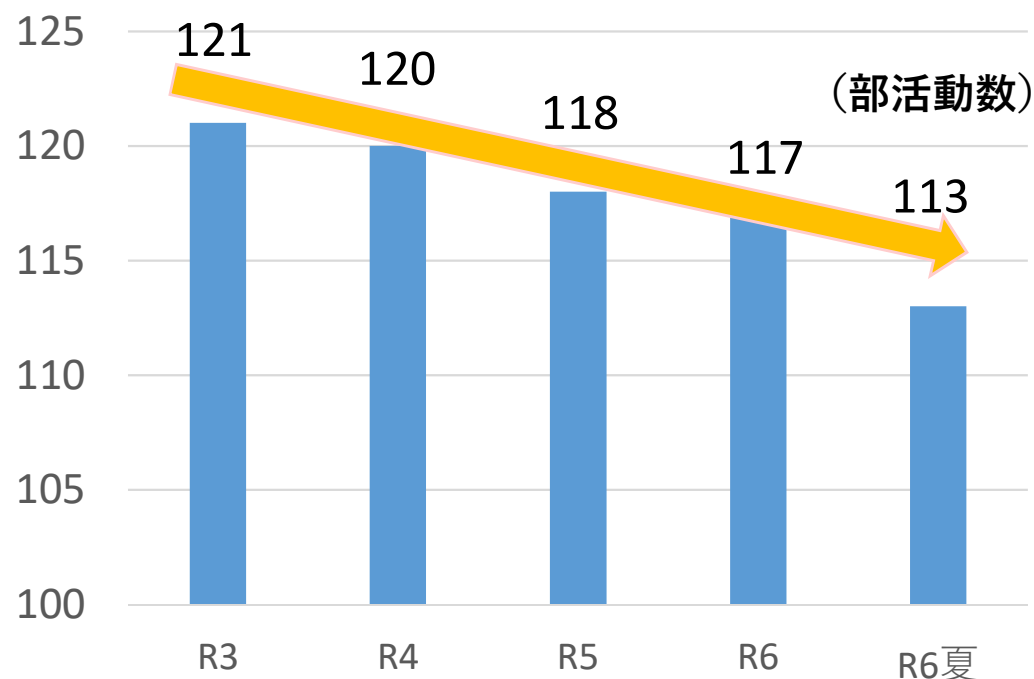
R6.5月現在

## 桑名市の中学校生徒数推計



## 市内中学校（9校）

### 桑名市部活動数推移

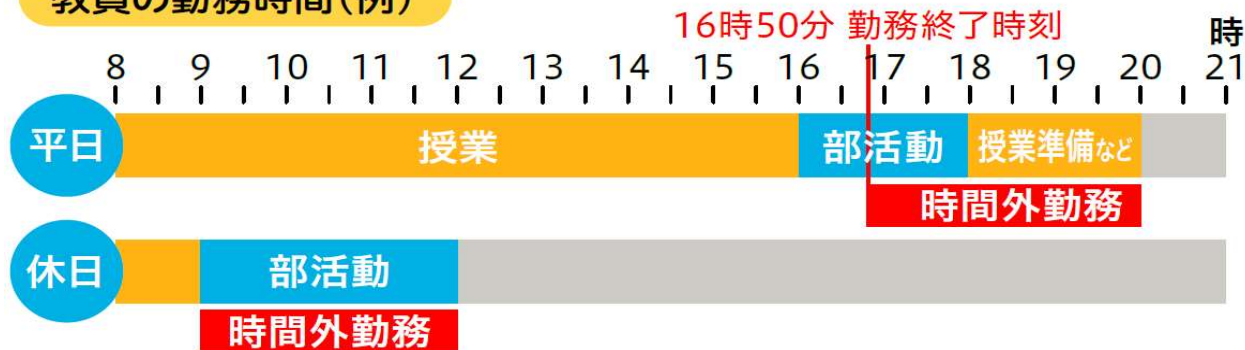


- 市内の中学校の生徒数の減少にともない、市内中学校9校において、**令和3年度に121**あった部活動のうち、**8**つの部活が廃部となっており、今後も減少となる状況である。
- 部活動への入部は任意であり、部活動加入率（平均値）は、令和3年度**94%**から、令和6年度は**91%**となっており、地域の団体に所属して、活動する生徒もいる。

# 中学校教職員の現状

部活動は教職員の奉仕で成り立ってきた事実  
休日や時間外に部活動に従事することの限界

## 教員の勤務時間(例)



## 教 職 員 の 声

- 今は、子どもが小さく負担が大きい。時間が出来れば、指導者として携われるかもしれない。
- 勤務時間外まで、部活動時間が設定されており、**指導できない部活動の担当をする場合**があり、負担が大きい。
- 大会等の活動により、週休日のない週があることは、家庭に申し訳ないと感じる面が大きい。
- 自分の時間が許す範囲内で、携わりたい。 等

### 顧問をしている部活動のご自身の経験はありますか？

ない = 50.0%

ある = 50.0%

### 休日部活動の指導について

したい = 4.7%

したくない = 60.2%

条件あれば = 35.1%

教職員対象アンケート R6.12月実施

・専門性や意思に関わらず、**教員が顧問**を務めるこれまでの指導体制を継続することは、**学校の働き方改革**が進むなか、**より一層厳しくなる。**

# 今後に向けた「桑名市モデル事業」の実施

持続可能な  
体制づくりに向けて

## ◆目的◆

桑名市内中学校の部活動及び種目ごとの中体連専門部、文化的部活動における連盟等と連携し、今後の部活動の地域移行を見据えた地域の受け皿の醸成を図る。

《検討項目》 □活動場所 □受け皿の数 □指導者の数 □活動費用

## 実施風景



## これからの部活動改革に期待することは？

資格や経験のある専門的な指導者から指導を受けることができる。

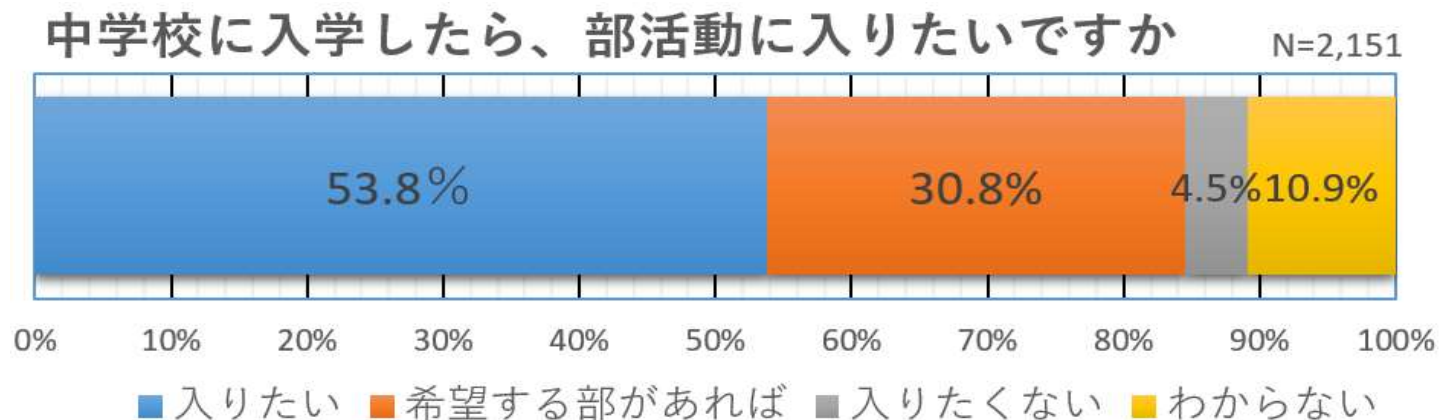
小学生や大人など、異なる年齢層の人たちと一緒に活動がしたい。

学校にない種目・活動に参加したい。

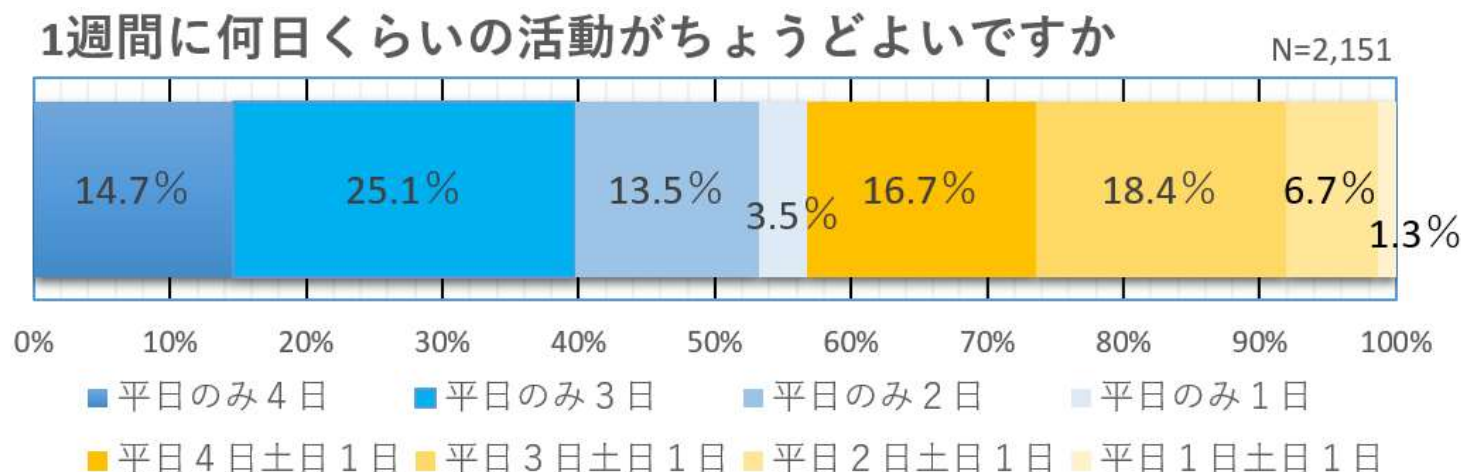
厳しい練習ももちろん大事だけど、あまりに長すぎたり、あまりにもきつい練習は避けたい。

今ある問題や課題などに何かしらの対策や解決を期待したい。また、(指導者が)部員達と相性が悪かったり、問題を増やしてしまう人ではないかが不安。

# 児童（現小学5・6年生の声）



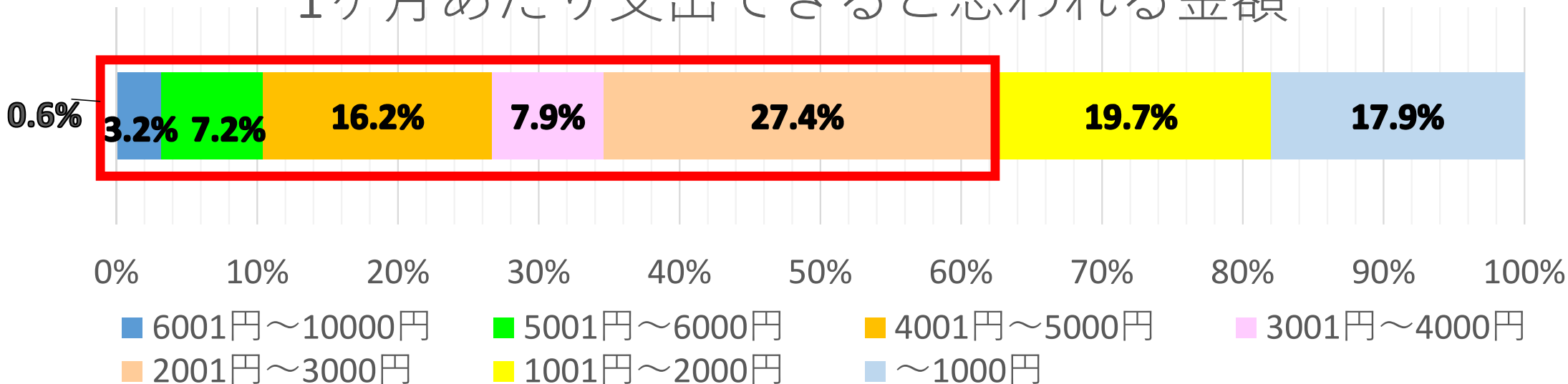
👉 小学生の 84% が部活動への入部を検討している



👉 小学生の 56% が平日のみの活動でよいと回答

## 現小学5・6年生の保護者の声

1ヶ月あたり支出できると思われる金額



👉 6.2%が月額負担3,000円まで支出できると回答

## 保護者が不安に思うこと上位3項目

- No.1 (64.6%) 送迎等の時間的な負担
- No.2 (54.4%) 指導者の人間性
- No.3 (33.0%) 希望する種目の活動が市内にあるかどうか

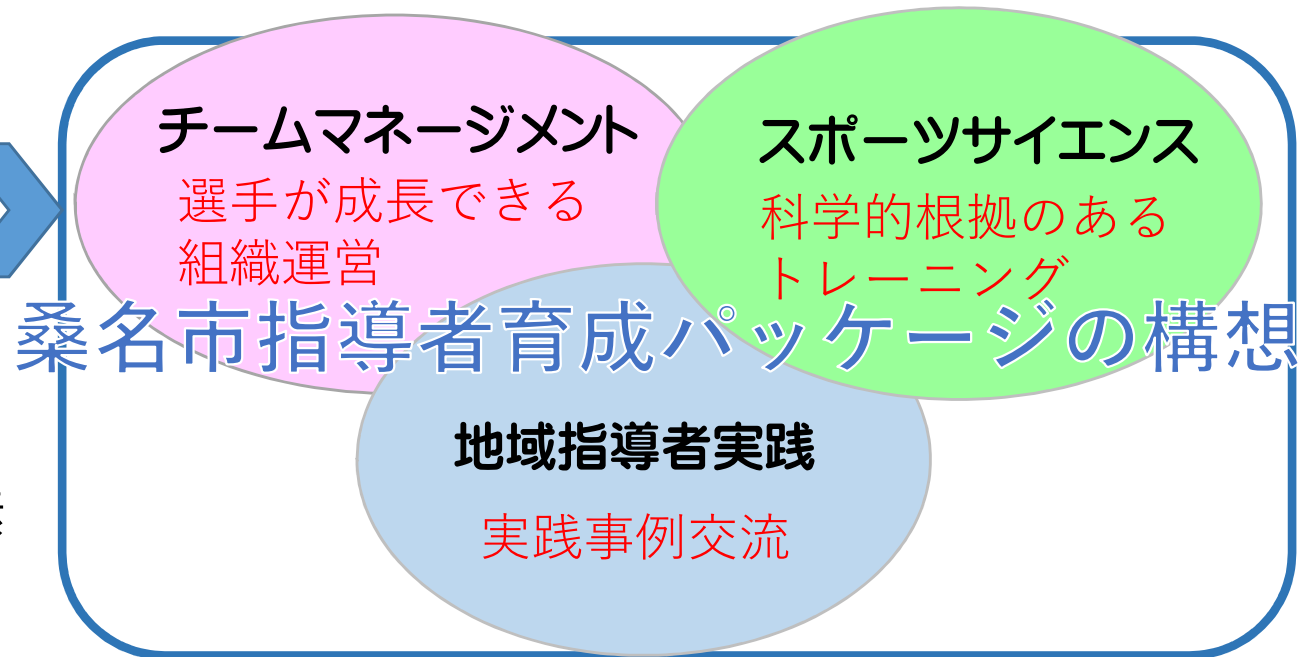
令和6年12月実施 アンケート調査より

## 部活動の地域移行に係る指導者の育成に関すること

- アスリートキャリアセンターと連携のもと、指導者養成のための研修をおこなう。



「チームマネジメント手法」と「正しく安全な運動指導」から、部活動の指導を行う際に必要な要素をまとめたカリキュラムを開発



R6年度は、対面講座、オンライン講座を実施

休日の部活動の地域移行を目指すために、チームマネジメントや安全管理を含め、指導者の育成体制の環境を整えることで、桑名市のスポーツ環境の充実につなげる。

# 令和8年度 休日の部活動地域移行実現に向けて

子どもたちが心身共に成長し、**指導者**もやりがいや満足感を感じられる環境づくり

## ①指導者・受け皿の確保

- 指導者の確保・派遣・管理
- 指導者研修の実施
- 受け皿となる新しい地域クラブの整理

事務的なサポート等、運営体制の必要性

## ②環境の充実

- 学校施設や備品の利用
- 公的施設の利用と条件の整理
- 活動に関わる支援

地域移行後の活動場所の調整と整理活動に関わる補助

## ③保護者との連携

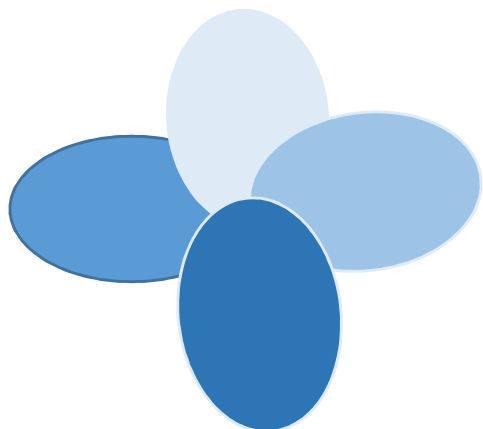
- 地域移行後の生徒及び保護者への連絡体制
- 部活動に関わる支援

受益者負担に関わる補助

## ④地域移行に関わる発信

- ホームページ等ででの情報発信
  - ・休日の地域移行に関わる方向性
  - ・市内地域クラブ状況 等

地域移行に関わる発信



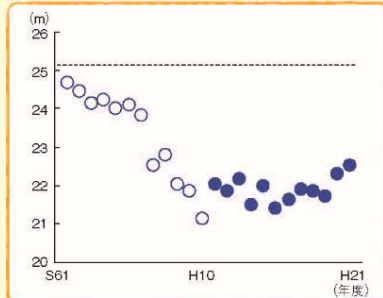
# 部活動地域移行に向けた現状と 今後の取組に向けて



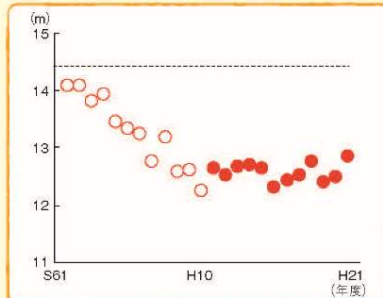
桑名市部活動在り方検討委員  
中京大学 教授 中野 貴博

# 子どもの運動実施の現状

【ボール投げ】小学生男子(4年生)

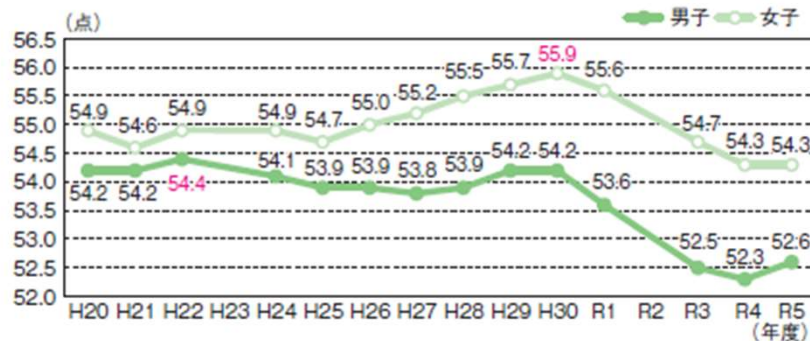


小学生女子(4年生)

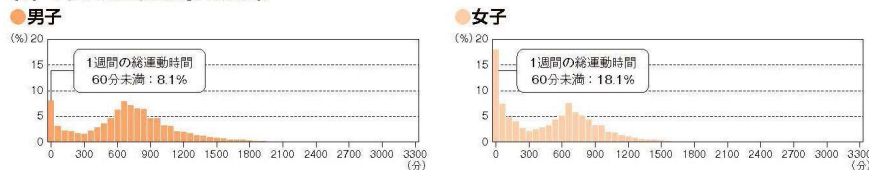


日本体育協会アクティブチャイルドプログラムガイドブックより

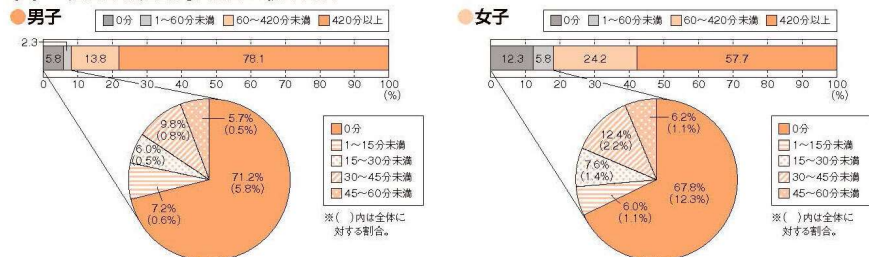
## 《体力合計点の経年変化》



〈1〉1週間の総運動時間の分布



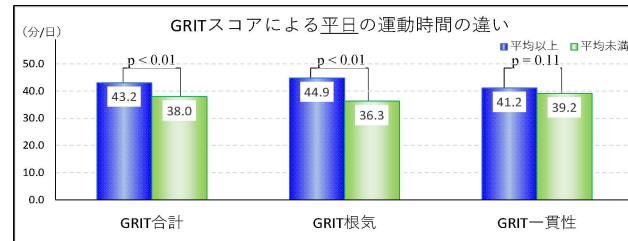
〈2〉1週間の総運動時間別の生徒の割合



スポーツ庁 全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

昭和後期から平成の前半にかけて急激に低下、その後は様々な取り組みもあり低水準ながら維持されてきたが、令和に入って再び低下傾向。あわせて、近年では運動実施の極端な二極化が大問題

このような運動等の機会の減少は体力だけではなく、課外活動を通じた様々な成長の機会の減少を意味する



GRIT（やり抜く力）という、近年、教育界でも注目されている指標も運動をしている子どもの方が良好！

学校環境下で教員指導による部活動実施の継続の困難性は前述の通り

日教組の調査結果でも

（全国の公立の小中学校や高校などの教職員、1万1844人対象）

「休日の部活動には関わりたくない」

中学校 ⇒ 46%、高校 ⇒ 44%

「頼まれれば関わってもよい」

中学校 ⇒ 16.2%、高校 ⇒ 17.4%

「積極的に関わりたい」

中学校 ⇒ 9.7%、高校 ⇒ 11.4%

## 現行の部活動の主な問題点

- 子どもの減少 ⇒ 部活動が学校単位で成立しない  
⇒ やりたい部活動を実施することができない  
⇒ 一緒にやる仲間が少ない
- （出生数 1973年：2,091,983人、2023年：687,000人程度）
- 教員の多忙化と各種問題発生、専門性のマッチング  
⇒ 業務増加による多忙化は有名。本来業務への影響。  
⇒ 実は、やり過ぎを含む様々な問題も発生  
（教員だって部活指導の教育は受けていない）  
⇒ 部活減少に伴い、教員側も経験ベースの専門性とマッチしない
- 子ども達のニーズに答え切れていない

## 部活動の地域移行のメリット・デメリット

### メリット：

- ・実施種目の拡大
- ・活動の多様化
- ・多様な人との接点
- ・より専門的指導
- ・教員の負担減
- ・指導に対する適切な対価

### デメリット：

- ・教員が指導しないこと（これがデメリットかは？？ ある種の性善説か？）
- ・学校現場との連携
- ・大会参加（特に中体連主催の大会）

他市町の調査などを見ても教員が見てくれないことへの懸念はよく聞かれる

専門的な指導を受けられる  
楽しさ増加や活動の多様化に対する評価の声も聞かれる

ここでのメリット強調は非常に大切。正直、デメリットは移行期のゴタゴタだけ！

- ・地域住民や従来型の部活しか知らない保護者世代にはデメリットのイメージが強い。
- ・検討の主体である自治体が制度の概要をしっかりと示す。
- ・メリットの方が多し、それに向かった改革を強調！
- ・地域で子ども育てるメッセージが大切！

### 重要なキーワード

- ・楽しくなければ・・・ ⇒ 勝利至上主義だけでは今の子どもは続かない。多様なニーズへの対応。仲間との交流が大切
- ・マルチスポーツ ⇒ 子どもの将来の選択肢。競技的にも専門化はまだ早い。海外では当たり前！怪我の減少にも効果
- ・指導者の質 ⇒ しっかりとした研修を実施。教員だって最初はすべて経験論。子どもの発育発達、教育的配慮  
専門的指導、安全、学校との連携、保護者対応、制度の狙いの理解 など総合的な研修実施と周知
- ・教育的意義の重要性 ⇒ 学校部活動の延長線である以上、教育的な意義が一番大切。スポーツや文化活動の持つ教育効果は絶大。より高度な実施や指導は専門クラブで。学校部活動は我が国が維持してきた重要な教育コンテンツである

- ・部活動の地域移行はチャンス！
- ・子ども達の活動の幅の拡大、多様なニーズへ応える、長期的な持続性、そして、地域の活性化のための重要なチャンス。地域で子どもを育てる重要な場。
- ・部活動を「地域に移行しなくてはならない」ではなく、「地域に移行して良かった」と思える仕組みをつくりあげる。

# 部活動の地域移行の検討フロー

